

Key
Person



栄人(株) 代表取締役

三沢 廉比古

大きな危機に直面した時、解体工事業を営む親友が手を差し伸べてくれたことがきっかけで建設業界に足を踏み入れた三沢社長。現場仕事には不慣れで、現在はスタッフに任せっきりだという社長だが、だからこそ『栄人』は成長することができていると語る。

「私が仕事を取り、スタッフが現場を仕切る。その体制で業績を伸ばしています。私が現場で何もできないからこそ、生まれた発想なんです」——何もできないことを逆手に取った方法で、経営を成功させているのだ。そんな社長の発想力で、同社はこれからも大きく飛躍を遂げていく。

(対談記事は 44～45 頁に掲載)

「何もできないからこそ
実現できることがあるんです」

想

人とのつながりを大切に 建設のプロとして共栄を志す

総合建設会社として解体工事や外構工事、エクステリア工事などを手掛けている『栄人』。異業種で経営者として様々な経験を積んできた三沢社長が、解体工事業を営む親友との縁をきっかけにして設立した。地域の人々の困りごとに全力で応える姿勢が評価され、順調に売上を伸ばしている同社。本日はそんな同社のもとをタレントの布川敏和氏が訪問し、お話を伺った。

苦しい日々を

親友が救ってくれた

——まずは三沢社長の歩みを伺います。ご出身はどちらでしょうか。

ここ、愛知県一宮市です。学生時代はサッカーに打ち込んでいました。今でもサッカースクールに通う子どもを持つ親御さんが集うサッカーチームに所属しています。また、『栄人』としても、地域貢献活動の1つとして地元の小学校サッカースクールを支援しているんです。

——未だに続けておられるとはすごい熱意ですね！ 学業修了後はどのように？

便利屋の会社に入社し、直営店舗で働き始めました。そこで店長を任されたことで、いずれは自分で事業を興したいという思いが芽生えたんです。そうして3年ほど勤務した後、知人と3人で起業し、不用品回収や遺品整理の事業を開始しました。しかし、共同経営の難しさを感じて約2年で私は事業から離れることになりました。すると今度は地元の先輩に、「放課後等デイサービス事業をやらないか」と誘われまして。というのも私は福祉系の大学を卒業しており、声が掛かったんです。

——そうして再び独立を果たされて。

そうですね。しかし、事業を始めたこ

ろに、国から支給される報酬が大幅に引き下げられたんです。その結果、私以外の2人は事業から手を引くことになりました。「せつかく始めたのだから」と、半年ほど説得を試みましたが、意見が合わず、スタート出来ずにいました。今思えば先輩経営者の方々から、経営の難しさ、気持ちだけでは何ともならない厳しさを教わった様な気がします。

——大変な時期を経験されて。その半年間はどのように生活をされたんですか。

親友である『濱口組』の濱口麗代表に助けられましたね。『濱口組』は解体工事業を手掛ける会社でして、現場で働かせてもらっていたんです。そのおかげでどうにか生活することができて、本当にありがたかったです。濱口代表がいたからこそ今があると思っています。

何もできないからこそ

できることがある

——『栄人』さんを設立されたのはどういったきっかけで？

福祉業よりも現場での仕事が忙しくなってきたことで、そちらでやってみようと思うようになったんです。そうして27歳の時に『栄人』を設立しました。解体工事からスタートし、今では、庭

の外構・エクステリア工事から、住宅リフォーム、外壁塗装・防水工事、清掃業務、そして新築工事まで、住まいに関わることなら何でも対応可能な体制を整えています。地域の方々が「どこに頼んで良いのか分からない」と悩まれた時に、当社に相談いただければ全て解決できるような、全力を尽くしています。

——苦勞を乗り越えて現在は順調に歩まれているんですね。

当社では私が仕事を取り、スタッフがそれをこなすという体制にしたことで売上が伸びました。私は現場では何もできないのですが、何もできないからこそ思いついた発想なんです。また、優秀なスタッフがいてこそ成り立っていることで、本当に人に恵まれたと感じますね。彼らが高い技術を持っているから仕事の幅も増やすことができています。

——なるほど、何もできないからこそ実現できた。素敵な発想ですね。

それがスタッフの才能開花につながったこともあります。これまで彼は上司から押し付けられるように指示を受け、それに反発してしまうことでなかなか実力を発揮できずにいたようです。しかし、私は自分にできないことをお願いする立場ですし、上から物を言うことは決してしませんでした。そうすることで気持ち良く仕事を引き受けてくれて、本来の能力が出せるようになり、今では当社のNo.2として活躍してくれています。

——スタッフさんと良い関係を築いておられることが窺えます。最後に今後の夢を教えてください。

さらに仕事の幅を広げて、いずれは分社できるほど会社を大きくしたいですね。そして、当社に関わる全ての人が豊かになってほしい。そのための仕組み作りに全力を注いでいきたいです。これからも「人で栄える家族の輪」をモットーに、皆がファミリーという意識で共栄していこうと思います。

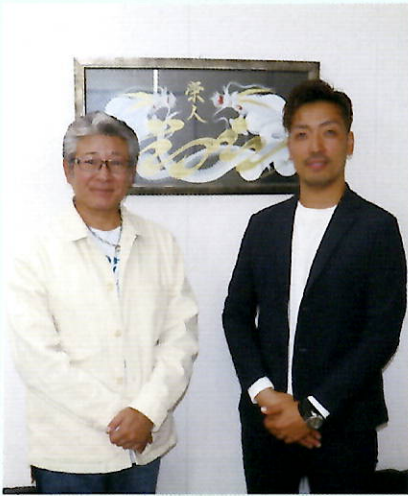
(取材 / 2022年5月)



布川 敏和

After the Interview

「物腰が柔らかく、終始穏やかな表情で対談に応じてくださった三沢社長。『人に恵まれている』と周囲への感謝を語っておられましたが、社長のお人柄がたくさんの人々を惹きつけているのだと思います。今後の展望を伺った際も、『周りの人が豊かになってくれることが自分にとって一番の幸せです』と話してくださり、本当に優しく思いやりのある方だと感じました。これからも多くの人々に慕われる素敵な社長でいてくださいな！」



人々に選ばれ、愛される企業に

三沢社長曰く、「昭和は物で決まる時代。平成は情報で決まる時代。令和は人で決まる時代」という。さらに言えば、SNSの普及により情報やモノが溢れる中で、何をするかより誰に頼むかが大切だと社長は考える。その信念は、『栄人』の経営方針にも存分に活かされている。地域の人々に、『栄人』に任せたい」と感じてもらえるよう、日々努力を重ねているのだ。

例えば、社員教育の場では必ず全員に、「当たり前のことを誰も真似できないレベルで徹底的にやる事」の重要性を伝えている。挨拶や報連相、掃除など、誰でもできることを高いレベルで行うことが、信頼につながるからだ。また、お客様に寄り添うことも同社のモットーである。お客様の悩み事は全て仕事と捉え、解決するために奔走する。時には専門業者を紹介したり、解決方法のみを伝えたりするだけのこともあるという。利益に直結せずとも、お客様の笑顔のために全力を尽くしているのだ。細やかな気遣いと思いやりの精神で、これからも同社は多くの人々に選ばれ、愛されていく。

代表取締役

三沢 廉比古

愛知県一宮市出身。学生時代はサッカーに打ち込む。大学を卒業し、便利屋での就職を経て2度の独立を果たす。その後、解体工事業として『栄人』を設立。現在は、外構工事やエクステリア工事など、工事に関する事業を幅広く手掛けている。



栄人 株式会社

愛知県一宮市三ツ井 2-25-15
URL : http://part052.oops.jp/35132_eight/



～人で栄える家族の輪～

Building and demolition

Eight Co.,Ltd.